



# ロータリーの根幹「職業奉仕」 当たり前のことが出来ていますか？

職業奉仕委員会 委員長  
福永 健一(奄美RC)



3月20日はオンラインにて職業奉仕セミナーが行われました。福永健一職業奉仕委員長が自分なりの職業体験を交えて「心の奉仕」をお話され、さらに大迫PGによる講演も行われ、ロータリーの歴史と共に「職業奉仕」を紐解く貴重な機会となりました。

【福永委員長のお話】 皆様こんにちは。本日はなぜ職業奉仕がロータリーの金看板なのかを、私の職業における実体験を交えつつお話をし、「**職業奉仕は心の奉仕である**」をテーマに、社会に貢献できるような職業奉仕への深層探求を行います。職業奉仕は、ロータリアンの皆様のあいだで日々実践・行動がされています。だからこそ事業が成功し、豊かな生活を営むことができます。ポールハリスの「奉仕の理念」を念頭に、シェルドンの経営学やサービス学、テイラーの「四つのテスト」を軸として、時代に沿ったプラスワンを考え、最終的に**どれだけお客様に喜んでもらえるかどうか**を考えて実現することが大切です。それぞれの職業を営むにあたって常に面倒くさいことが発生しますが、**一つ一つの作業を「当たり前のこと」として丁寧**に扱って、それぞれの個性や自分なりのやり方で「**企業の味**」を醸し出し、心のこもった奉仕をおこなうことが、真の職業奉仕であると私は信じています。

## ロータリーの歴史と、職業奉仕の理念

■ロータリーの創始者、ポール・ハリスは「世界に奉仕の理念」を提唱しました。

■ドナルド・カーターの提言 ◎自分だけの利益を追求してはいけない ◎相手の立場を考慮することが大事!! (1906)

ドナルド・カーターは、当初ロータリーへの入会勧誘に対して「職業を持って社会で生活している以上、職業を通じて社会に貢献することが自分が存在する証になるのであって、自分たちだけの利益にこだわって、社会的に何もしない団体に将来性も魅力もない」と言って入会を一度断りました。これに対してポールハリスは親睦と相互扶助のみで運営されていたロータリーに奉仕の概念を取り入れることにより、カーターは入会を決意します。

カーターは後にこう語りました。「まったく利己的な組織は永続性がない。もしも我々がロータリークラブとして生き残り、発展することを望むならば、我々の存在を正当化するために何ごとかをしなければならない。我々はある種の市民に対する奉仕をしなければならない。」

■アーサー・F・シェルドンは、ロータリーに経営学、サービス学、管理学を持ち込みました。(1908)

ロータリーが創立された当時の資本主義は、資本家たちの強すぎる欲望により自己の利益のみが追求され、労働者の利益は不当に搾取されたため、経済の仕組みが破綻しかけた時代でもありました。20世紀の初頭の弱肉強食の資本主義の流れを解消するために打ち出した経営学的セオリーが、シェルドンの打ち出した「最もよく奉仕する者、最もよく報われる」であり、この考え方が企業の多くを救いました。

■ハーバート・J・テイラーが「四つのテスト」を提唱しました。(1932)



言行はこれに照らしてから

- 1、真実かどうか 2、みんなに公平か 3、好意と友情を深めるか 4、みんなのためになるかどうか

ハーバート・テイラーは、倒産に瀕していたアルミニウム会社の社長に就任して、正しい営業活動を行えば必ず会社は再建できると考え、「四つのテスト」を示しました。このシンプルな経営哲学のおかげで、同社の業績は改善を続け、5年後に借金は完済され、15年後には株主に多額の配当金を分配するまでになりました。

そして私はこの四つのテストに加えて、最後に「**みんなに喜んでもらえるか**」を自問するようにしています。



「靴屋さんが全部なくなれば、みんな靴なしで歩くことになる。」  
(シェルドンの言葉)

シェルドンは職業奉仕の説明として靴屋さんの例をして次のように述べました。  
「世界中の靴屋さんが1か所に集まる。靴の製造器具とともに集まる。それが突然の天災で全部なくなったら靴なしで歩くことになる。はだしで歩くのはたまりません。そのとき社会は、靴屋さんが如何に世の中に役立っているか、職業を通じたサービス（相手のためになる行為）をしているか分かるだろう」私達の身近にも必要とする業界・職業がなくなったら不便を感じるであろう事が多々あります。そのように考えれば、どんな職業でもこの世の中の役に立っているということになります。



アーサー・F・シェルドン

## 当たり前のことをするために大切なこと

### ■ かきくけこ論

「みんなのためになる」ロータリアンとして、人として世界や地域社会が望むことへお手伝いするために、考え・気づき・工夫し・謙虚に・行動 かんがえ・きづき・くふうし・けんきょに・こうどうする という「かきくけこ」論が必要です。そして「かきくけこ」論を実践する上で、常に五感を精一杯使う、見て・聞いて・話して・嗅いで・触れる を大切にしましょう。

### ■ ロータリアンが磨く 3つの要素

奉仕とはサービスです。質の高いサービスとは何かを真似て、学ぶことにより提供できます。会員同志が個々の職業について情報交換をし、互いのスキルを磨くことに尽きます。では具体的に何を磨くのでしょうか？

1・心を磨く      2・技術を磨く      3・体力を磨く

私の知る限り、たいがいの事業所を訪れた際に、暇なときはできていたことが、急に忙しくなった時に、又は多忙期に接遇した時に、サービスする側が無表情になり、さもすると迷惑そうな雰囲気さえ漂うときもあります。これらを防ぐためにロータリーでは、会員同志・例会時においてサービスについての学習が必要となります。顧客を思いやる心で実践することが「奉仕」でありサービスです。思いやる心を育むところがロータリーであり、例会での情報交換や日々の職業活動によって職業技術を高めます。そして心の奉仕と高い技術を長期的に継続していくためにも、自己管理とりわけ健康管理が大切です。



### ■ OCCUPATIONではなく、VOCATION = 天職

ロータリーでは、利益をあげようと思って働くのではなく、天職を通じたサービス、即ち相手のことを考え、みんなのためになるように職業活動を行うことが職業奉仕です。職業のことを英語ではオキュペーション (occupation) といいます。「職業奉仕」はオキュペーションでなく ヴォケーション (vocation) という言葉を使います。これは「天職」という意味。神様から与えられた、世の中のためになる職業です。

私たちロータリアンは、周りの人から「あなたは具体的に職業を通してどのような工夫をしてみんなの為に役立っているの？」という質問に対して分かりやすく答える必要があります。私は焼肉店の経営管理者として長年にわたり私なりの職業奉仕をおこなってきましたので、ここで具体的な事例をお見せしましょう。(次項へ)



## 福永委員長の「私なりの職業奉仕」(焼肉店の経営管理)



厚生労働大臣賞を受賞した焼肉なべしま名瀬店

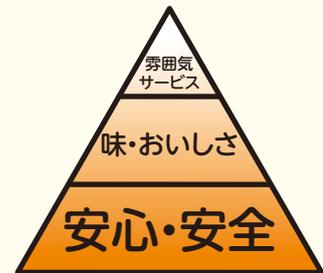
私の職業奉仕は、焼肉店の経営管理です。

食品を提供する施設では、雰囲気やサービス、味や美味しさを支える土台が衛生管理です。お客様にとって当たり前の「安心と安全」を提供する衛生管理の徹底により、平成25年に焼肉なべしま名瀬店は「厚生労働大臣賞」を受賞しました。それらの具体的な衛生管理をお話しましょう。

### 「雑菌と共生する」衛生観念

衛生管理のコツは「雑菌との共生」です。雑菌をゼロにするのは不可能。ゼロを目指すのではなく、雑菌の繁殖パターンを知って、繁殖を抑制する仕組みを作り、努力と工夫を重ねることが大切です。ゼロにしようと薬剤に頼ると、衛生意識が希薄になり、結果的に雑菌の抵抗力と繁殖力が強まると考えています。

具体的には雑菌が移り広がらないように、それぞれの場所における分別管理を徹底することです。雑菌は繁殖しやすいところに移ろうとします。なので移りにくい仕組みを構築することが大切です。それとマメな清掃が不可欠です。洗浄の基本は煮沸消毒。薬剤は出来るだけ抑制しています。



衛生管理が基本的土台

### 雑菌を移らせない分別管理の具体例

#### 各種用品を分断して収納殺菌

調理器具等の各種用品を用途別に分断して殺菌収納庫に保管。調理器具は肉、野菜、果物の用途別に保管されている。



各種用品を分断

#### 足踏み開閉のゴミ箱を設置

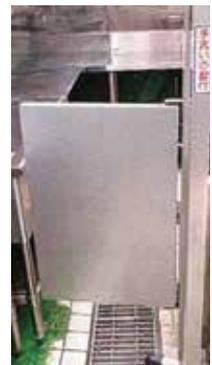
生ごみ、それ以外のゴミを分別。手が触れないよう足踏み開閉式のゴミ箱設置。



足踏み開閉のゴミ箱

#### 作業場を分割してスイング扉設置

厨房内を「調理場」と「洗い場」に分割。その間にスイング扉を設置して、スタッフがこの扉を通る際に、扉脇の洗面台で手洗の義務付け。

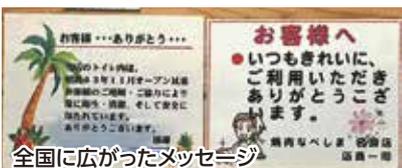


作業場を分断

### 客の衛生意識も喚起

#### 全国に広がったメッセージ

いまや飲食店に限らず全国各地の商業施設に広がった「いつもきれいにご利用いただきありがとうございます。」のメッセージは、1988年「なべしま名瀬店」での設置が起源であるとされている。



全国に広がったメッセージ

#### 来客用手洗場での手洗奨励

店内入口の来客用の手洗には「習慣づけよう食事の手洗」のステッカーを貼り、来客に手洗習慣を奨励。手荒れなどを考慮して、3種類の洗浄剤を用意。



来客用手洗い場

#### トイレ手前にスイング扉2重設置

トイレの雑菌が客席に持ち込まれないように、トイレは土足厳禁。スイング扉を二重に設置し、エリアの分断をアピール。衛生意識の向上を促す。



トイレ手前にスイング扉

さて皆様は具体的にどのような「私なりの」職業奉仕を実践されておりますか？前頁で申し上げた「かきくけこ論」と五感を最大限に駆使して、「心の奉仕」を大切に、皆様の天職に磨きをかけてください。

